

竹村 行雄 気象庁予報部予報課太平洋台風センター・所長(1948. 5. 29生)

推薦理由：竹村会員は、予報関連業務に長年従事し、降水短時間予報のルーチン化に際してはその技術開発に多大の貢献をした。また、竹村会員は、台風や気象衛星業務にも従事し、国際会議などの経験も豊富である。これらの経験を生かし、学会の業務や企画などで能力を発揮して頂けるよう、理事候補として推薦する。

城尾 泰彦 気象庁観測部環境気象課大気解析官(1956. 1. 11生)

推薦理由：城尾会員は、現在気象庁観測部環境気象課に所属しているが、これまで経験した業務から得られた、温室効果ガスをはじめとする各種の気象観測についての幅広い知識を有している。また、予算資料などの作成経験も豊富で、これらの能力を学会活動にも生かして頂くため、理事候補として推薦する。

以上、全国区、5名。

○中部地区(1名)

周東 健三 名古屋地方気象台長(1941. 10. 25生)

推薦理由：選挙により中部地区にて当選した宇治豪会員が緊急の不都合のため理事候補者になることを辞退されたことに伴い、その補充として、細則に従い中部地区会員の中から、学会活動の活発化に尽力して頂けるにふさわしい会員として、周東健三会員を推薦する。周東会員は海洋

分野を専門としているが、気候と海洋の密接な関係が話題になっている現在、学会におけるこの分野での研究の発展が期待される。

◎名誉会員の推薦について

日本気象学会定款第6条5項では、本学会の名誉会員について「この法人(日本気象学会)に対し特に功労のあった者で総会の議決をもって推薦する個人」と規定しています。理事会で協議した結果、以下の方がた(敬称略、五十音順)を新たに名誉会員に加えていただくように総会に提案することを決定いたしました。総会でご審議のうえ、推薦していただくようお願いいたします。

なお、現在の日本気象学会名誉会員は、磯野 謙治、岸保勘三郎、藤田 哲也、村上多喜雄、山元龍三郎、吉武 素二の6名となっています。

候補者名	推薦理由
荒川 昭夫	・数値モデルによる大気大循環の研究に於ける顕著な功績
小倉 義光	・気象力学の研究及び優れた多くの著作による気象学の教育・普及に於ける顕著な功績
笠原 彰	・数値予報及び大気大循環の研究に於ける顕著な功績
都田 菊郎	・数値モデルによる延長予報及び大気大循環の研究に於ける顕著な功績

第30期役員候補者の当選辞退について

1998年4月1日
日本気象学会選挙管理委員会
委員長 春日 信

先に行った日本気象学会第30期役員候補者選挙で当選した下記の理事候補者から、人事異動に伴う所属支部からの転出を理由に、理事候補への当選を辞退したい旨の届け出があり、選挙管理委員会としてこれを受理しました。

宇治 豪(中部支部選出)

この役員候補の補充については、次点者がいないため、日本気象学会定款および細則の規定に従い、第30期理事候補選挙当選者の推薦によって行われます。